

第8章 地方創生と連動した取り組み

1. 地方創生による公共施設の活用

いすみ市の人口は、平成27年実施の国勢調査で38,594人となっていますが、平成7年の約4.4万人をピークに減少に転じており、平成52年には約2.7万人となり、現在より約30%減少することが推計されています。

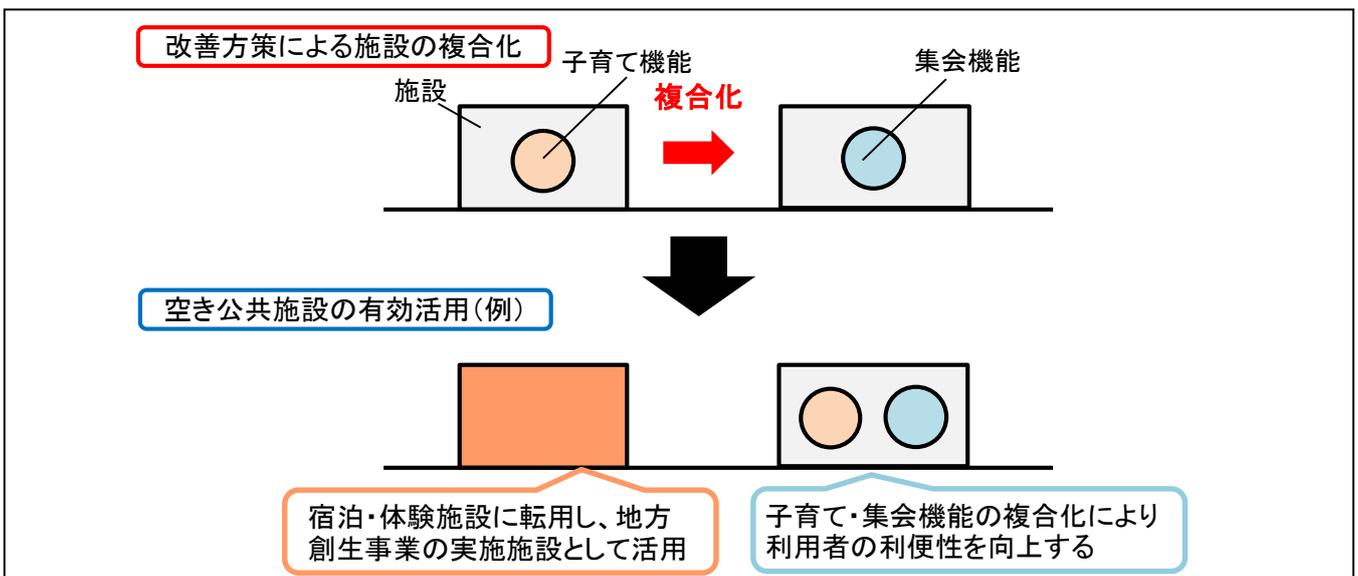
市では、人口減少に歯止めをかけ、地域の活性化を図ることを目的に、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、最大の課題である人口減少問題に関する対策を検討し推進していくため、平成27年10月に「いすみ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生事業に積極的に取り組んでいます。

これらを踏まえた取り組みの一環として、国・県等と連携し、空き公共施設を活用した企業誘致や新しい視点や発想を取り入れたリノベーションによる公共施設の有効活用の取り組みを行っています。

また、本市の公共施設は、合併前の旧3町において、教育、文化、福祉など様々な目的や時代のニーズに応じた行政サービスの提供、地域経済の活性化等を目的に整備され、活用されてきた施設をそのまま引き継いでおり、大原・岬給食センターの廃止による新給食センターの設置、夷隅地域の統合された夷隅保育所や現在、3小学校の統合を進めている以外は、同様の機能を持つ施設が重複しているのが現状であることから、本計画では、合併に伴う機能重複の見直しによる施設の適正配置、人口や需要の変化に対応した施設規模の適正化など、5つの基本方針を定め、長期的な視点に立って公共施設等の更新・統廃合・長寿命化等に取り組むことを掲げています。

今後、本計画の各方針に基づき、施設の集約化や複合化の実行により、空き公共施設が生じることが考えられるため、地域活性化の為に有効活用を検討していく必要があります。これらの空き公共施設については、地方への移住や定住、雇用の場の創出の促進など、人口減少に歯止めをかけ地域の活性化につなげるため、県や近隣市町村、民間事業者、NPO法人等と連携し、空き公共施設を活用した企業誘致など、地方創生の取り組みと連動した有効活用の取り組みを積極的に図っていきます。

図表 公共施設活用イメージ



2. 公共施設の活用例（取り組み事例）

○空き公共施設等を活用した企業誘致活動事業

千葉県と連携し、雇用の受け皿を確保するための「空き公共施設等を活用した企業誘致事業」を展開しています。

【空き公共施設等を活用した企業誘致活動事業】

企業・起業家に対する現地見学会やPR活動、及び空き公共施設等活用調査の実施

千葉県といすみ市などの関係市町村が連携し、地方創生加速化交付金を活用して、空き公共施設等にIT・ベンチャー企業のサテライトオフィス等を誘致する新たな事業をスタートさせ、千葉県ホームページ内に、いすみ市も「里山・里海を育む自然豊かなまち（千町保育所、岬学校給食センター、市民ギャラリー）」として、空き公共施設等を紹介するページの開設やPR動画を公開し、空き公共施設等を活用した企業誘致に向けた紹介を行いました。

また、平成28年10月に幕張メッセで開催された「地域クラウド交流会」で「空き公共施設等活用フォーラム」が開催され、市の相談ブース等を設け、市の空き公共施設等への企業進出のPR活動を行いました。

空き公共施設等の紹介

里山・里海を育む自然豊かなまち（千町保育所、岬学校給食センター、市民ギャラリー）

千葉県 **いすみ市** 里山・里海を育む自然豊かなまち

空き公共施設を活用してみませんか

<p>①旧千町保育所</p>  <p>*いすみ市松丸2858-2他 *敷地面積: 3,921㎡ *床面積: 564.31㎡ *建築年: 昭和53年 *構造: 木造平屋建 *市原鶴舞ICより19.2km</p>	<p>②旧岬学校給食センター</p>  <p>*いすみ市岬町和泉4468-2 *敷地面積: 2,490.93㎡ *床面積: 1,162.47㎡ *建築年: 平成12年 *構造: 鉄筋コンクリート造 二階建 *市原鶴舞ICより33km</p>	<p>③市民ギャラリー</p>  <p>*いすみ市大原7400-17 *敷地面積: 1,104.52㎡ *床面積: 486.00㎡ *建築年: 昭和53年 *構造: 鉄筋コンクリート造 二階建 *市原鶴舞ICより26.5km</p>
---	---	--



【電車】
東京駅から大原駅「特急わかしお」で約70分
【車】
圏央道 市原鶴舞ICから約40分
九十九里有料道路一宮出口から約25分

サテライトオフィスの設立・地方移転をお考えの皆様、ぜひお問い合わせください。

【お問合せ】
いすみ市水産商工観光課 移住・創業支援班
TEL: 0470-62-1332
E-mail: uji@city.isumi.lg.jp

○公共施設オープン・リノベーション推進事業

市が所有する公共施設について、建築家、デザイナー等のクリエイターや民間ビジネス事業者等の新しい視点や発想を取り入れてリノベーションを行うことにより、公共施設をさらに人を呼び込む集客拠点や新たなビジネス拠点として創出し、まちの再生を図ることを目的に「公共施設オープン・リノベーション推進事業」に取り組んでいます。

【いすみ市サンライズガーデンリノベーション事業】

公共施設をクリエイターや建築家などのアイデアを活用して、リノベーションを行い、市民や民間事業者に開放された新しい公共空間に生まれ変わらせる「公共施設オープン・リノベーション」の推進による有効活用

いすみ市サンライズガーデンは、大原海水浴場に隣接し、プールを中心とした施設として、平成8年（1996年）7月にオープンし、施設の老朽化により平成27年度に利用を中止しました。

平成28年度に、総務省の「公共施設オープン リノベーション推進事業」の採択を受け、管理棟をコワーキングスペースや工房（Lab）、交流を促す多目的スペースとして改修することで、新たなビジネスマッチングの場や、情報交換を行うスペースとして活用するとともに、未利用のプールの段差を活用して、フリーランスや事業者、アーティストやクラフト製作者、一次製品の作り手等が集うマルシェやマーケットの舞台へと改修

します。いすみ市は、当施設を異業種交流及び創業を誘発する場とし、移住促進及び地域の活性化に資する仕組み、手法、環境を創出したいと考え、広くその利活用策を公募し施設運営者を選定しました。



施設の概要

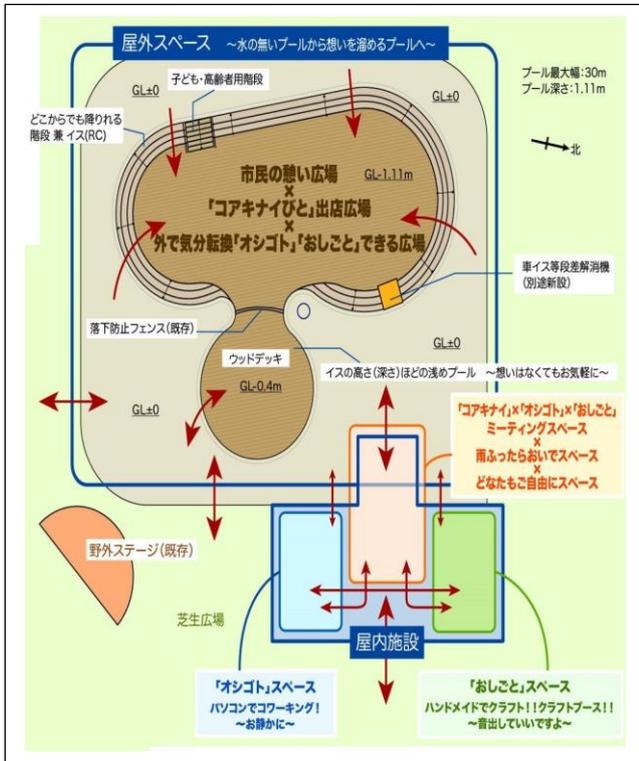
場 所	いすみ市深堀1712-1 JR外房線大原駅より徒歩20分 圏央道市原鶴舞IC下車40分
敷地面積	9880.34㎡
構 造	管理棟 鉄筋コンクリート造（RC造） 平屋建床面積244.00㎡ 更衣室（44㎡×2）、シャワールーム（13㎡×2） プール500㎡、多目的広場4,300㎡
	都市計画区域内 平成8年（1996年）竣工

コンセプト

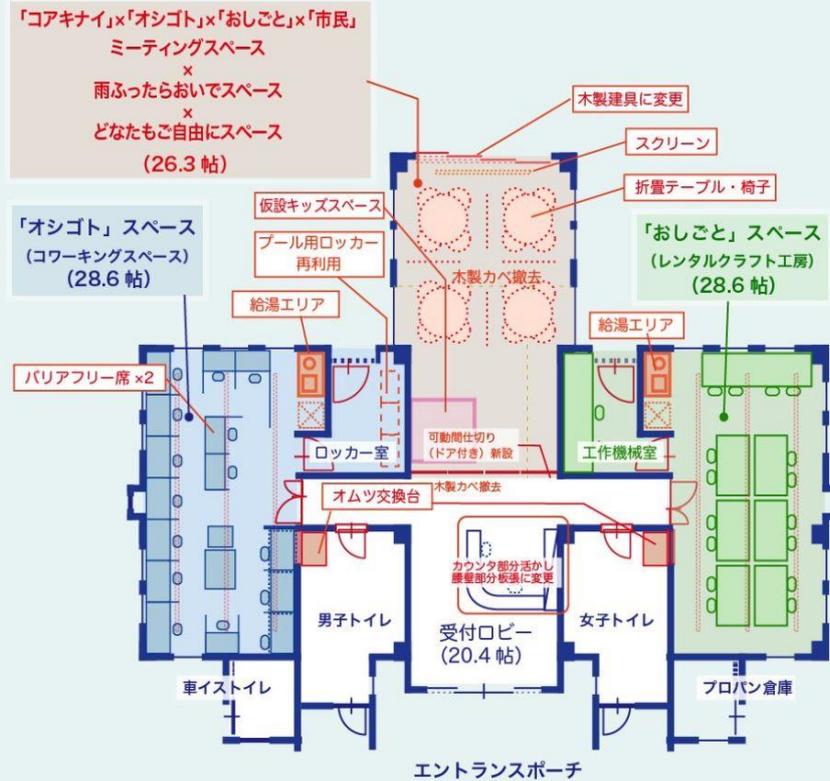
職種を超えて始まる、新しいビジネスマッチングを促すスペース。
市民（地元住民×移住者）の情報交換のスペースを提供する。
いすみの魅力、創業への想い・スキル・ノウハウをプール（貯蓄）し、
安定した「いすみクオリティ」の仕事の世界に売る。

老朽化により閉鎖された市民プールの「地形・三つの円の集まるユニークな形状」を活かす。
階段をぐるりと回し降りる「舞台（広場）」を創出。
誰でもどこからでも舞台に降りる事ができ、
段々に座る事で車座となり、一体感を醸成。

いすみ市サンライズガーデン リノベーション



屋内施設



プールのある屋外スペースへと
開放され誘う開口部のある
フレキシブルな空間へ

床:フリーアクセスフロアとする
机・ブース仕切りなど:シナランバーコア等で造作

